

午後3時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 本日最後の質問となります6番議員の中島秀樹でございます。

先日、福岡のほうの会議に出まして、その会場に朝倉市の出身の方がいらっしゃいましたので、朝倉市の市議会議員の中島秀樹ですということで御挨拶をいたしました。すると、頑張りなさいと、国家観を持って頑張りなさいというふうに言われました。市議会議員に国家観、ちょっとそのときは違和感を覚えて帰ってまいりました。

そしてこの週末、地元の会合に出まして、その中で、議会だよりを読んでるけれども、ちまちまとした質問にはもう飽き飽きしていると。朝倉市がこれから大変な時期に30年後を見据えてこうすべきだ、そういった話を市議会議員というのはしないといけないんじゃないのかということに注意を受けました。

きょうは人口増加政策、たくさんの議員の方が入ってることを自分でやってみようと思っただけでやらせていただいております。きょうはそういった大きな話をするのが市議会議員に求められてるというふうに考えまして質問をさせていただきたいと思っております。雑駁な質問にならないように気をつけてやりたいというふうに思っております。

質問席より続けます。

（6番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） では、質問を人口増加政策と市役所の建設（改築）についてということで、2つ挙げさせていただいております。時間の配分にしまして30分、30分ぐらいでやらせていただきたいというふうに思っております。

まず、私は大学受験にちょっと1回目、現役のとき失敗しまして、浪人をしたわけなんですけれども、予備校に通いました。そのときは代々木ゼミナールという大手の予備校がございまして、代ゼミのテキストで勉強するというのは非常に何か安心感がありますといえますか、大手の予備校で、絶対潰れない予備校だというふうに思っておりました。ところが、時代は変わって、今は大学全入時代というふうに言われております。私が浪人をしていましたのは、約30年前ぐらいになるんで、35年ぐらい前か、になるんですけども、大学全入時代というのは想像もつきませんでした。

しかし、予備校でも残ってる予備校があります。早くから地方の塾を囲い込んで生徒を確保している。大学生自体が少なくなるので、学生を囲い込む。それからインターネットとかを使った大教室型ではなく、小規模な教室でライブ配信をして、インターネットでやっていくような方法をとって生き残ってる予備校もございまして。片や代ゼミというのは相変わらずの大教室型、私が浪人をしたときにやってたスタイルをまだ続けてるといふ

に新聞でも読みました。

ここにやはり先を見る目というのが必要ではないかなというのを痛感いたします。地方自治体は会社ではございませんので、そういったものは必要はないというふうに思っているんですが、しかし、自分が将来こうなったらいいなという願望ではなくて、これから世の中がこういうふうになるんだというのを読む力というのは、やはり必要ではないかなというふうに思っております。

きのう夕方のニュースを見ておりましたら武雄市が出ておりました。また武雄市が出てするというふうに思いました。公立学校と民間学習塾がコラボいたしまして、官民一体型の学校の創設をするということのニュースだったんですけども、私が驚いたのは、福岡市でその説明会を開いてるんですね。これは完全に福岡市の住民に来てもらうと、そういうのを狙って武雄市に移住してもらうことを狙って説明会を開いている。自治体もここまで来たりというような私は感を持っております。

そういった中で、私はやはり政策の力というのは強いといいますか、力強いものがあるというふうに思っております。先日、建設経済常任委員会で北海道に視察に参りました。その中で北広島市というところが印象に残りました。職員の方が生き生きとしていろんな政策を出していく、何かパワーを感じるんですね。楽しく仕事をしてるといいますか、そういったものを感じます。隣の芝は青く見えるのかもしれませんが、やはりそういった政策の力というのは、私は必ずあるというふうに感じております。

そういった中で、朝倉市も人口を増加させるために、やはり何か具体的な政策を打っていかないといけないというふうに考えています。まず私が1つ目、挙げさせていただいておりますのは定住促進の方策を打ったらいいんじゃないかというふうに考えてます。私はこう思うというのをきょうは言わせていただきたいと思っております。

これは北広島市のパクリになるんですけども、まねで結構です。北広島市は子育て世代の50歳未満の人が北広島市に定住をすれば、50万円、使い道自由なお金を一時金として渡すそうです。これは極端に言いますと旅行に行ってもいいし、映画を見てもいいそうです。皆さんからお預かりした大切な税金をそういったことに一時金として渡すということには、私は是非があると思いますし、視察に行く前に、果たしてどうなのかなというふうに首をかしげながら行った部分もあったんです。でも政策として見たらそうやってでも北広島市は人口を確保していくんだ、若い人たちを取り込んでいくんだというやはり意気込みというものを感じました。

私はそういった定住促進政策をすべきだというふうに考えております。一時金50万円を出すべきだというふうに考えております。これについていかがお考えでしょうか、御意見をお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 北広島市の補助金制度も調べさせていただきました。そ

れによりますと、議員おっしゃいますようなことなんですけれども、転入に対する補助ということでございます。

ただ、私どもといたしましては、補助によって転入がどのくらい増加するのかといった費用対効果といったものを政策を考える前に想定するという作業が必要になってくるというふうに思います。この事業でございますけれども、ベッドタウンの北広島市であるというようなささまざまな条件があると思いますけれども、我が朝倉市に見てみますと、ほかの定住促進策よりも優先して採用することかどうかということにつきましては、十分な精査というものが要だというふうに思います。そういうふうに思っておるところです。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 2つのキーワードが出てまいりました、費用対効果ということと優先すべき政策であるかということでございます。

まず、そういえば、そしたら課長、ほかに優先すべき政策ではないんじゃないかということであれば、優先すべき政策は何かお持ちということですかね。私は何かアクションを起こすべきだと、何かやっぱりやるべきじゃないかと、このままじゃいけませんよと、そういうことを申し上げたいと思ってるんですが、今、課長の御答弁の中で優先すべき課題かといったら、別に何か代案があるということでございますでしょうか、それをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 定住促進策といいますものは重要な課題ということでありまして、長期的な視点を持たなければならないと。1つのことに、1つのものだけで全体が、全体といいますか、定住促進の効果が上がるというものではないと、総合的なもの、つまり市の魅力と活力というものを総合的に向上させなければならないというふうに思っております。そういう意味からいたしますと、1つの事業を考えるのも大切なんですけれども、それに関連します、例えば子育て、住宅、教育、産業、全てのものを俯瞰しながら、全体を見ながら進めていくということが必要だというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） あわせわざ、やっぱり必要だというふうに思っております。一点豪華主義はどうかというような御意見だと思うんですけど、私は総花的な、幕の内弁当的なものよりも、ロースカツ丼じゃないですけども、そういった特徴のある、ある程度つかみのあるといいますか、発信力のあるような、そういった政策が求められてる時代ではないかなというふうに思っております。

また、朝倉市というのは、北広島市は電車で札幌まで18分というのがうたいなんですけれども、確かに18分では行きませんが、ベッドタウンにもなり得るような、よく言われますよね、福岡都市圏にも近いとか、久留米にも近いとか、そういった意味で可能性はあるのではないかなというふうに思ってるんですがいかがでしょうか。ベッドタウンに

私はなり得ると。そして一点豪華主義でいくべきだというふうに考えますが、どんなふうでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） ベッドタウンだけで生きる市ということにはなり得ないというふうに思います。さまざまな、例えば産業がございますので、私どもの産業とか、それから交流人口の拡大とかというようなこともございますので、この朝倉市がベッドタウンだけでということにはならないというふうに思います。

ただ、さまざまな総合力を上げるというふうに言いましたけれども、福岡都市圏に近いということは事実でございますので、それを生かした施策を進めていくということは大切なことだというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 特定の施策のことではなくて、当初、議員が一般的な、全体的な施策、まちづくりという含めるということですので、そういう面でお答えしたいと思います。

定住化というのは朝倉市の永遠の課題だと思っておりますし、ずっと以前からも取り組んでたことでございます。ただし、定住化とか、定住化にかかわるような事業名を挙げていませんでした。今後は言われるように、PRとして、こういうふうな名前を挙げることも1つだと思っております。

もう1つは、私たちのような基礎自治体というのは、これからは施策を何本打ったか、要するにたくさん打てないと生き残れないと私は個人的に思っておりますので、施策を打っていくということは大事だと思っております。ただし、言いますように、やみくもに施策を打ってもお金がかかるわけですが、やっぱりそこは費用対効果なり、総体的に連携しながら、例えば定住化に向けるようなものやっけていくしかない、連携しながらそれに向かっていくようなやり方しかないというふうに思っておりますので、そこら辺はやはり一部の課、部署じゃなくて、市全体、全庁的にそういうふうなもので取り組んでいくしかないというふうには考えてます。ですから、今後こういう施策ちゅうのは大事だと思っておりますので、先ほどの地域創成のほうもありますけど、大事なものだと思っておりますので、取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私はやはり若い人が来ていただけたら、それなりの税収も上がりますし、経済的な効果もあるというふうに信じております。そういった中で、やはり若い人、何とか取り込むように、今、部長がおっしゃったように、政策をやっけてたくさん打つべきだと思うんですね。当然、野球に例えるなら、打席に立ってバットを振らないといけないというふうに思っております。何回バットを振ったかと。当然三振もあると思うんですけれども、もう三振が許されない時代は終わりつつあるんじゃないかなというふうに

思っております。そういった意味でたくさんバットを振っていただいて、定住促進の分、50万円出せというのは、私がある意味、極論を申し上げましたけれども、何かそういった施策を打っていただけたらというふうに思っております。

では、次、申し上げたいというふうに思っております。次は育児サポートでございます。

これも済みません、ちょっと極論をまた申し上げるかもしれません。前回の議会での一般質問で時間が足りませんでしたので、足早に行ったんですけども、やはり例えばグーグルで検索をしたら1番目に出てくるのをどうしても見ます。それと一緒に、やはり検索をしてヒットしないとイケない。そういった意味では目立った政策を打っていく必要があるんじゃないかと。朝倉市おもしろいと、先ほど武雄のニュースでも、武雄は何か図書館がおもしろいと、それから宇宙科学館があるとか、そういったことを説明会に来てたお母さんがおっしゃってました。

私、子供と一緒にそのニュース見てたんですけど、お父さん、朝倉市には何があるのというふうに言われまして、ダムが3つあって、秋月があって、三連水車があるよというふうに言って、そう言ったものの、ちょっと歴史的なものとか、子供には余り興味を引かないとか、若い世代にはちょっと興味を引かないものなのかなんていうふうに子供に話しながら自分で感じたんですけども、そういった中で、やはり目立つ政策といいますか、目玉の政策というのはやはり打つべきじゃないかなというふうに思っております。

そういった意味で、費用が約7,000万円から8,000万円年間かかるというふうに言われておりますが、ほかで私は取り返せばいいと、将来十分取り返せるんじゃないかなというふうに思っております。

第3子の保育所の無料化を私はすべきだというふうに考えておりますが、これについていかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君） 保育園での第3子の無料化ということで、制度的には同時入所した場合、2人目は半額、3人目は無料となっております。それで以前、平成24年度ですけども、少子化対策、定住促進を目的に検討した経緯がありまして、18歳の子を第1子として換算した場合、3人目を無料化した場合、保育園に行ってる子を無料化した場合、前回の議会のときにも申し上げましたが、年間所要額として約6,800万円ほどかかるというふうに申し上げました。

実は、朝倉市の子供が3人以上いる世帯の状況なんですけども、子供が就学前のときは約27%、これが小学生になると約半分、小学生以下の子供がおる3人以上の家庭というのが、子供を持ってある家庭の約半数はもう3人を持ってあるということになっております。それで、そういった経過もありましたんで、24年度検討いたしましたけど、導入には至っておりません。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） やはり費用対効果の分で効果が余り上がらないということになるんでしょうか。これ、どうやったら、私は何かやはり朝倉市に住んでみようと、ここら辺の小郡とか、大刀洗とか、筑前町とか、いろいろあると思うんですけど、そういった中で朝倉市に住んでみようとというインセンティブとなる目玉政策になり得るんじゃないかなというふうに思うんですが、部長、やはりちょっと無理でしょうか、費用対効果、上がりませんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君） いわゆる3人以上、子供を持ってある世帯、家庭で3人以上持ってある方は、もう約半数おられるということがまず1点。

それから、まずいわゆる就学前の内訳を見た場合に、保育園に行ってる子供というのが約5割、半分です。幼稚園に入園してるのが約15%。あと残り約35%が家庭での保育だったり、無認可の保育所に行ったりとかいうことでございます。それで、今、私たちが24年で試算したのは、いわゆる子供を持ってる約半数の5割の方に対する施策でありまして、なおかつ3人目に対する無料というのは、もともと2人から3人へ子供を誘導するという考え方に立つと、子供を持ってある家庭においては、約半数の方が3人目を持ってあるという考えのもとにこの制度の導入に至ってないというところはあります。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） となりますと、ちょっと公平性に欠けるといいますか、効果が余りないというような、そういうお考えということですよ。

でも、私はやはりそれでも何か目玉といいますか、必ずこの3人目無料化に固執するつもりはないんですけども、何かそういったインセンティブとなるような、朝倉市にはこういうのがあるから、ぜひとも帰ってきなさいとか、住んでみようととか、そういったものを打つべきではないかなというふうに思っております。

担当課のほうで、そういった育児サポートといいますか、そういった意味で目玉の政策、そういったものを御検討したことというのはありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（江藤剛一君） 何ていいますか、目玉になるというか、来年度から新しい子育て支援計画を、今、策定中でございますが、いわゆる新しい子育て支援法に基づいて、来年度からの5カ年計画を今、策定中でございます。アンケートをとった場合、やっぱりいろんなニーズが出てきます。これといったものがないというか、ないといえないんです。それでいろんなニーズに応える施策、先ほど総務部長も申し上げてましたが、いろんな施策を打つ必要があるのかなと。それと何ていうんですか、利用者数としては実績上がらないけども、こういったのがあったらいいなとか、あと朝倉市特有のものかもしれ

ませんが、面積が広いとかいうものもあります。

それで、なかなか子育てに関して、現在これといったものはない、子ども未来課としてはございませんが、例えば夏、6月の議会でしたけども、中学生の入院の無料化を、小学生から中学生まで延長したとか、そういったところでは打てるものは打っていきたい、考えて、トータル的に子育てに限らず、雇用とか、住宅、そういったのもあわせながら、やっぱり何かやっていく必要はあるのかなということは思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、書店のほうで「地方消滅」といいまして、増田元総務大臣でしたか、書かれた新書が並んでおります。私も読ませていただきましたけれども、やはりあの本が出て、あのレポートが出たことによって、やはり我々の危機感に火がついたというのが本当のところにないかなと思っております。あの書籍の役割というのは非常に大きかったのではないかなという、漠然と何か、将来そういうふうになるんじゃないかなというのが具体的に見えてきたと。そういった意味ではあの本の力はすごいなというふうには思っております。

そういった中で、朝倉市はこのままでいくと、子供がやはり少なくなって、人口がやっぱり減っていくと、これはみんな感じていることと思っております。そういった中で、先ほどの部長の言葉ではないですけれども、やはり選択と集中をしていって、何かやっぱり施策を打っていかないといけない。たくさん僕は施策を打っていかないといけないというふうに思ってるんですね。

そういった意味で、まだニーズがちょっとつかみ切れていないような印象を持ちました。そういった中で、やはり何かを選択して策を私は打っていくべきだというふうに思っております。その選択をするのは、やはり私は市長だというふうに思っております。

市長、私がいろいろある意味、絵そらごとといいますか、無責任なことを申し上げたかもしれないですけど、市長、今までのやりとりの中でお感じになったことをお願いします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 50万円の補助金ですとか、いろいろと提言をいただきました。提言というよりも、そういったことをやっているとあるよと。朝倉市としても、それと同じことじゃなくても、何かぼんと打ち上げ花火みたいなことをやったらどうですかという話です。

そういったいろんな施策というのは、全国市町村が同じことをやるということではないと思うんですね。例えば北広島市というところですか、については、札幌から近いし、2020年ぐらいまで人口がふえていったところなんです、ベッドタウンとして。それがこのところ減ったということですから、そこなりのいろんな事情があってそういう施策を打たれたんでしょう。

この朝倉という地域を考えてみますと、いわゆるずっと、これはもう朝倉市も旧甘木市

もそうですけども、合併当初、合併じゃなくて甘木市が誕生してしばらく、そこからずっと人口が減ってきておる、これはなぜかと申しますと、やっぱりこの地域の今までの産業構造というか、農業というものの活力がだんだんだんだん失われてきたということも1つの大きな原因、そういったいろんな原因があると思うんです。ですから、私としてはやはりそういった打ち上げ花火的ではないけれども、そういった基盤になるところを、まずきちっとした上で、そしてあわせてそういった目先という言い方、そうですね、その子育ての支援ですとか、そういったことも一緒にやっていかなきゃならん。どちらかという、やはり今まではいわゆる働く場所とか、そういったことに力を入れてやってまいりました。じゃあ今後についてはやはり今のいろんなニーズ見てみらなわかりませんが、そういったものも含めて、大いに今から検討していかなきゃならんだろうというふうに思っています。

ただ、あれは統計をちょっとこの前、見たんですけども、朝倉市の場合は自然減が非常に多いという状況がございます。だからそこらあたり、それと社会減と両方ありますけども、自然減についてどうとめていくか、あるいは社会減についてどうしていくかということも考えながら、今後の朝倉市の施策というものを考えていかなきゃならんと思います。

ただ、武雄市がよく出されるんですけども、あそこはあそこでいろんなことをやられます。じゃあそれが本当に私も、それが本当に住民の人口低減の歯どめになってるかどうかということははっきりと私もわからないんですよ、あれだけいろんなことやられて。だからそこらあたりも含めて検討しながら、今後施策としていろんなものを、職員の知恵も借りながら、皆さん方の知恵も借りながらやっていきたいなというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 朝倉市には独自の歴史があつて、その中で市長は、朝倉市は農業を基盤産業とした産業構造があつて、農業自体が少し今、衰退してるから、その影響が大きいというお考えだというふうに私は理解いたしました。

でも、私は、その農業自体の衰退といいますか、それはもちろん国政の農業政策のまさみみたいなのもあったかもしれませんが、先進国になって、日本が工業国になっていくにつれて、日本全国としても農業が、1次産業にかかわる人口というのは減っていつてますので、その大きな流れの中に、朝倉市も私は巻き込まれてるんじゃないかなと。それだったら朝倉市も要するに勤め人とか、そういった者がやはりふえていくというところを見越してやっていくべきなのかなと。農業の人口がこれから急激にふえるということは、ちょっとここ二、三十年では見越せないのかなというふうに思っておりますので、そういった意味で何か施策を打ったらいいんじゃないか。市長、お願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 農業というのも例えば出したんですけども、いわゆる農業がこういう状況になってくるというのは、ある一定、仕方のないというか、国際的な流れでこ

うなってきたんだろうと思いますけれども、いわゆる従来ですと、例えば兄弟が2人おって、男の跡取りが2人おって、1人は農業で飯食っていかれるばい、1人は働きにどっか行くという状況が比較的あったんですけどもなくなった。じゃあそれにかわる産業、ここで暮らすための所得を得る場というものが見出せなくて今日に至っておるということ。それと全体的な日本の人口減少ということもありますけども、そういったものを踏まえた上で、そういったものの土台になるものも一方できちっとやっぱりやっぺいかなきゃならんということで、今日まで比較的、例えば企業誘致ですとか、そういったことについて頑張ってきたということですけども、もちろん子育てについても、さっき言いましたように、医療費については、今、大分どこでもよくなりましたけども、その当時としては近辺では一番いい医療費の助成もやっていました。そういうこともあわせて、今後もその時代、その時代に合った形の中でやっぺいかなきゃならんというふうに考えてます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） とにかく所得を得る。得ないと働く場がないとやはり住めません。そういった中で地方が消滅する、自治体が消滅すると言われてる中で、福岡市というのは150万都市で、数少ない人口がふえているような都市でございます。そういったところで朝倉市は近いわけですね。私はこのメリットというのは生かすべきだというふうに考えております。

それに関しまして、交通アクセスの部分について質問を続させていただきたいと思えます。

私はやはり福岡市近隣にあるというメリットをやはり朝倉市はもっと追求すべきだというふうに思っております。そういった中で、1時間で、1時間という数字にこだわって、1時間で天神に着くような、やはり交通アクセス網を整備すべきだというふうに考えております。今でいくと、1時間じゃちょっと厳しいと、1時間30分あれば着くなどというようなイメージだというふうに私は朝倉市は思ってるんですけども、そういった中で、1時間にこだわって交通アクセスを整備していく、そうすれば地元には働く場がない、すぐには企業は誘致できないかもしれないけども、交通アクセスがいいことによって人口を確保できる、また定住する人たちをふやすことができる、若い人たちに住んでもらえる、そういった施策を打っていくべきだというふうに考えております。1時間にこだわった交通アクセスを整備すべき、これについて担当課の御意見をお聞きします。

○議長（手嶋源五君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） ふるさと課のほうからの見解を言います。

福岡都市圏へのよりよいアクセス環境をつくることは、定住人口の推移や交流人口の増加を目指す本市にとって重要なことと認識しております。本市と都市圏を結ぶ公共交通手段としましては鉄道とバスでありまして、いずれも1時間に4便程度運行されております。甘木中心市街地と都市圏とを先ほどから時間的なものが50分から70分程度で結んでおりま

す。都市圏とのアクセスの機能をさらに向上させる方策としましては、バス停や鉄道の増便が考えられますが、公共交通利用者が今、やはり人口減少と一緒に利用者も減少しております。その中で、いずれの公共交通機関も増便は難しいと考えております。

また、都市圏での所要時間の短縮化が望まれますが、そのためには道路改良や軌道の複線化、あるいは高速車両の導入などが必要となります。これらに関しましては、広域的な政策の中で莫大なやはり設備投資を要することから、鉄道事業者や沿線自治体の合意形成を始めまして、財源におきましては、国や県等のレベルでも対策が不可欠となっております。

それと、乗りかえ時間の調整による所要時間の短縮化なんですけど、西鉄電車やJRと連絡しております甘木鉄道では、JR基山駅での短縮にあわせて、小郡駅の停車時間を調整しております、今以上の短縮はちょっと難しいと思っております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私が思いつくのは、やはりまず高速の甘木インターですね、車で高速のゲートを通るときに、やはりあそこのNEXCOの駐車場というか、あそこは本当は何ていうか、高速バスとかで帰ってきた人を迎える場所で、駐車場ではないんでしょうけども、やはり車がごちゃごちゃいっぱい、以前は割かしきちっとなっていたんですが、今はごちゃごちゃいっぱいとまってるなという感じです。この方たちが、もう少し便利な駐車場ができたかなというふうに思います。

それから、甘鉄に乗ると、やはり西鉄のホームにすぐおりていけたらいいなと、歩くのがちょっと遠いなというふうに思います。

それから、よく私は400番の博多行きのバス乗るんですけども、甘木営業所のバス・アンド・パークライド、あそこに車をとめられて400番のバスに乗れば、1本で博多まで高速使って行けますんで、そういった整備ができないかなというふうに、できたらいいなというふうに思っております。

こういったことというのは、やはり民間だけでは僕は難しいんじゃないかなと思っております。先ほど冒頭に申し上げましたように、政策の力というのが必要だというふうに思っております。近隣の市町村との調整もしかり、もちろんお金もかかります、費用対効果の問題もございます。ですけども、でも、これをやっていかないと、やはり私は朝倉市のこの閉塞感といいますか、人口増の見通しといいますか、そういった明るい展望というのはないのではないかなというふうに思っております。

市長、もう1度、お尋ねいたします。トップとして、中島議員はそんな簡単なこと言うけど、そんなに簡単ではないよと、実現性という問題があるんだよということは、当然、私はこれは仕事ですし、現実の社会ですのであると思っております。私はあくまでもこれは政策論争として、議場のこの闘う場ですので、提言をさせていただきますが、市長、お考えを

お聞かせください。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 1時間、1時間半という話が出ました。中島議員、私も学生時代、東京に住んでおりました。向こうで言うと、通勤時間1時間から1時間半って近いと言わねえですね。2時間、3時間近くかけて通勤してる。しかし、こちらでは1時間なり、1時間半ちゅうのは結構遠いという印象です。それほど違うんだろうと。

そこで、甘木鉄道について言いますと、今、ちょっとふるさと課の課長がお話をしましたけれども、当初、出発点で小郡の話です、小郡の話しますと、最初はもっと遠かったんです。あれ、やっとこっちまで来る、譲歩していただいたということです。ですから、あれをもう少し近くというのは、相当これは厳しい話になるだろうと思います。

それと、接続にしても、一応JRのほうに甘鉄の場合は乗り継ぎがいいようにしてますんで、どうしてもそうしますと西鉄との、両方うまくちゅうのはなかなか、両方会社がありますんで、甘鉄に合わせるちゅうわけにもいきませんので、どうしても、それでもそんなに長くは待たないでいいんだろうというふうに思います。いずれにしてもそういうこともございます。

また、パーク・アンド・ライドについて言いますと、高速について言いますと、イオン、今、ジャスコか、あそこの駐車場を計画して、これは県か何かのあれやったね、事業か何かやったね、今、やってるよね、今、そういう形でやらせていただけてます。あの高速の乗り場、新たに広くするちゅうことになってくると、またこれはいろいろございますんで、そういう形でもやってます。

いずれにしても、私、ベッドタウンという言い方、好きじゃないんですね。ベッドタウンと言いますと、例えば今、よく言われてる宗像の日の里ですとか、ああいいたところが九州で一番最初にできたいわゆるベッドタウンと言われるところかなと。それが今、どうなってるかといいますと、老人の町です。ですから、やはりそこらあたりも頭に入れながら、しかし、やはり人もおってほしいということですから、完全なベッドタウンじゃなくて、それもあるけれども、また別なものもあるよという地域づくりというのが大事だと思うんです。

ですから、そういうことも含めて、交通ちゅうのは非常に大事ですから、ただ、私は1つ思うんだけど、ちょうど私、甘木鉄道を、国鉄の甘木線が廃止になって、それを残す当時、市会議員をして、実藤議員もその当時いらしたと思いますが、あの当時、私は非常に懐疑的でした、甘木鉄道残して大丈夫かなと、はっきり言って。しかし、会社の努力で今は何とか、赤字の年もありますけどももってます。

あわせて、あの沿線があれだけ住宅が張りついた、朝倉市というよりも、むしろ筑前町ですとか、大刀洗とか、ああいうところです。しかし、あれは甘木鉄道を継続したおかげだと思うんです。ただ、一番熱心で始発・終着駅である甘木を含む朝倉ちゅう地域について

の新たな、甘木鉄道が残したから新たな人が来たというのははっきりわからんわけですね。周辺沿線ですと、沿線に家が張りつきますんでわかりますけども。だからそういった意味で、今後も甘木鉄道は大事にしていかなきゃならないと思いますし、いずれにしましても、いわゆるここらあたりの大都市である福岡との時間距離の短縮ということについては、言われるようにやっぱりもっと追求していかなきゃならない問題だろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 交通インフラというのは、私は朝倉市は非常に恵まれてるというふうに思っておりますので、もっともっと磨きをかけて、魅力ある町にすべきだというふうに思っております。

最後に、若い人たちに定住をしてほしいというふうに私は考えております。若い人たちにたくさん移住してきてもらおうと、そういったイメージを持っております。そのためには、やはり若い人たちで考えるべきじゃないかなというふうに思っております。特に朝倉市の職員の方、見てると、30歳ぐらいの、係長クラスの方あたりが、私もサラリーマンをしておりましたので、一番何か油が乗ってるんじゃないかなというような感じがしております。やはり部長とか課長になりますと、ある程度、組織運営といいますか、リスク管理のほうもやっていかないといけませんので、ある意味、ちょっととんがったアイデアというのはなかなかやっぱり出しづらんじゃないかなというふうに思っております。

隣の芝は青く見えるのかもしれませんが、先ほど冒頭に申しました北広島市は、40ぐらいでなられた課長さんがいらっしゃって、その政策課が20代の職員の方がいっぱいいて、物すごく若々しいといいますか、パワーといいますか、バイタリティーみたいなのを感じたんですね。私ももう50を過ぎまして、年寄りがいかにというのは腹立たしいんですけども、ですけども、若い人に住んでもらいたいんだったらば、やはり若い人の意見というのを取り入れるべきじゃないかなというふうに思っております。そういった意味で、もっと朝倉市の組織上、もっと若い人の意見を取り入れる機会ができないかなというふうに思っております。これについてはいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 人事課長。

○人事課長（西 和臣君） 朝倉市では職員の企画立案や政策形成能力の向上を図るため、副市長を講師に政策形成の研修を実施をしております。受講者は若い世代から係長未満の職員に絞って、学習意欲のある職員を各部から選抜し、研修を継続しております。

また、職員からの業務改善や行政施策に関しまして、職員提案制度を設けまして、職員の市政運営への参加意欲の向上を目的に、若い職員に限らず、職員が所属を超えた多彩な発想を政策提案として提出できる制度となっております。

このように、政策形成能力研修で政策形成能力を磨き、そこから発生した意見や発想を政策として職員提案制度につなげるという方法も若い職員の意見を政策に取り入れる方法

の1つではないかというふうに思っています。最終的には若い職員に限らず、職員一人一人が情熱とチャレンジ精神を持って市政運営にかかわっての発想、意見というものは、組織の活性化や意識改革にもつながり、組織力の向上に大いに貢献するものではないかというふうに、そういう考えを持っております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私はぜひとも若い方を生かすような市役所の風土といいますか、そういったものをもっと醸成していただきたいというふうに思っております。

前もちょっと議会の中でお話ししたかもしれませんが、iPhoneの部品というのはほとんど日本製です。ですけれども、それを組み合わせて魅力ある商品をつくる、ここら辺がやはり今、日本人が弱いというふうに言われております。新しい発想、斬新な発想で、これからやっぱり発想で勝負していく時代、政策で私は勝負していく時代だというふうに思っておりますので、そういった若い人の発想が潰されないような、生かせるような、そういった企業ではありませんけど、そういった風土ですね、そういったのをぜひとも生かしていただけたらというふうに思っております。

以上で、人口増加政策についての質問は終わらせていただきます。

時間が少なくなりました。次に、市庁舎の建設（改築）について申し上げます。

毎週日曜日、楽しみにしております「黒田官兵衛」も次がもう最終回のような感じです。私は先ほど冒頭で登壇したときに申し上げましたように、国家観を持ちなさいとか、30年後のことを考えて政策を市議会議員であっても論じなさいとか、そういったことを言われるというのは、やはりグランドデザイン、これが今、求められてるんだというふうに思っております。やはり朝倉市には黒田官兵衛がいないといけないというふうに思っております。

そういった意味で、朝倉市はやっぱり気質なんではないでしょうか、どうにかなるだろうというようなところがございまして、綿密なグランドデザインを描くのがちょっと弱いんじゃないかなというふうに思っております。そういった意味で、しっかりとしたグランドデザインをやっていくべきだというふうに思っております。

私は市庁舎の建てかえというのは、建てかえ、それから改築というのは、これからの朝倉市に大きな影響を与える一大行事だというふうに思っております。そういった中で、合併特例債が32年度までですので、私は森田市長が任期中に大半のことが決まってしまうのではないかなというふうに考えてます。そういった意味では森田市長がキーマンでいらっしゃるというふうに思っております。正しいグランドデザインを描いていただきたいというふうに思っております。

そういった中で、職員は市長の忠実なやはり事務方として政策を実行していかないといけない、市長が右と言え、右を向いて右の政策をやっていく、左と言え左の政策をやっていく、これが私は職員の務めだというふうに思ってます。じゃあ市長に文句といいま

すか、小言、耳の痛いことを言えるのは誰かといえば、それは私は議員だというふうに思っております。

まずは市長、非常に耳の痛いといえますか、嫌なお話かもしれませんが、やはり70億円の中で本当にタイミングがたまたま重なってしまったんですけども、朝農もあるし市庁舎もある。もちろん規模は朝農のは決まっておりますので、どれくらいのものでできるかはわかりません。改築にするのか、建てかえにするのかも、これも具体的に決まっております。でも、お金が本当に足りるのだろうかというのが正直な気持ちでございます。基金も確かにあって、足りるようにやるというのがオーソドックスな答えだと思っておりますけども、でも将来、丸裸になるわけにも朝倉市はいきません。そういった中で2つのことを、大きな政策をやろうとしております。

市長は、どれが一番ベストミックスだと思いますか。私は要するに市庁舎はこのくらいで、何ですかね、朝農はこのくらい、朝農の総合的体育施設は県大会ができるようなレベルのもの、市庁舎はまだわかりませんが、建てかえも含めたらかなりの金額がかかると思いますね、そういった意味でどういった配分をイメージしていらっしゃるのか。市民の意見に従うと言えればそれまでかもしれませんが、私はトップとしてある程度のイメージは持つとくべきというふうに感じております。そういった意味で、市長はどのような見直しをお持ちなのか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） きょうもこのことについて財政面からについての質問が桑野議員でしたか、ございました。そのとき答弁しましたように、190億円の特例債、現在、いろんなで120億円で70億円残るだろうということです。その中からいわゆる朝農の利用、活用と、それからほかにもありますけれども、庁舎の整備という2つの大きな仕事をやらなきゃならんということでもありますから、具体的にじゃあ70億円をどう割るとか、そういうことを今のところには具体的な数字、持ち合わせません。

それともう1つあるのは、市民に任せるじゃなくて、市民の意見を聞いて、最終的には市のほうで判断させていただきますということをお願いいたします。

ですから、それは今から、特に庁舎につきましては、さっきから上ってますように、来年の7月には市民の意見を聴取して基本構想を練り上げるという段階ですから、その段階になれば、おのずと幾ら程度のものになるだろうということがわかってくると思いますし、朝農の活用については27年度中にはやると。その中でやりながら、極力、特例債で何とかできるようにという努力をやっていくということしか、今のところ、じゃあどっちで、今回はちゅうことは、この場ではちょっとまだ申し上げられんということでもあります。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は朝倉市の核である旧甘木町がやはり非常に寂れてるなというふうに思っております。だんだん寂しくなっていくというふうに思っております。

そういった中で、市庁舎は、私は改築ではなく建てかえるべきだというふうに考えております。経済的な波及効果があるような選択肢をするのがいいのではないかなというふうに個人的に考えております。しかし、市長も前、おっしゃいましたように、場所の選定であったり、そういったものは昔、南北戦争とかいうのがあったり、非常に神経を使うものでございます。でも、私はやはりトップとして政治センスを生かして、これをどこかに着地させないといけないというふうに考えております。

そういった意味で、私はできることならば改築ではなくて建てかえて、経済的な波及効果がある1つの起爆剤にさせていただきたいというふうに考えております。今から朝倉市の将来を見据えたときに、やはり民間の活力に期待するのはちょっと厳しいのかなと。そうなれば32年というお尻が決まっています。そういった中で市庁舎のことを考えるのは、このタイミングはやはり私は当然のことだというふうに思っております。

そういった中で、市庁舎をまちづくりの核として、朝倉市のグランドデザインを描くべきではないかなというふうに私は思っております。コンパクトシティとかいうような考え方もありますし、また、ここの市庁舎も少し場所が不便だというような市民の声も聞きます。そういった中で、私は移転すべきというふうに考えております。

市長、具体的に言いつらいとは思いますが、私が勝手な提案をいたしました、どのようにお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 場所についてどうこうということをここで申し上げるつもりはございませんし、ただ、今、不便という話が出ました。一時期は議員さんの中からも、朝農の跡地に庁舎を持っていったらどうかという意見もお伺いしたことがございます。そういったいろんな意見がございますので、そういったものを聞きながら、一方でやはり朝倉市として庁舎がどこがいいのかということ、これはまちづくりということに通じるとは思いますけれども、そういったものを十分考えながら、最終的に場所なり、じゃあ増築、改築するのか、それとも新しく場所を移して建てるのか、現在地に建てるのか、そういったことも含めて決定をさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私はもし改築であればそんなに急ぐ必要はないんですけれども、もし新築、どこかに移転してつくるということであれば、もちろん用地の買収が必要であったりとか、そういったことも当然起こってまいりますので、そういった意味では時間が余りないのかなというふうに思っております。できるだけ早く方針を決めていただいて、現実的に動かないと、実現性の面で縛りがかかって、ある意味、一番落としどころが得やすい方法に落ちついてしまうのではないかなというふうに心配しております。この市庁舎を新築、もしくは改築するということは、私は時期的には適当だというふうに思っており

ますので、ぜひとも朝倉市の経済の復活の起爆剤にさせていただきたいと思っておりますので、これは時間がかかる問題ですので、早く決めていただきまして、動いていただきたいというふうに思っております。

もう1つだけ、済みません、ちょっとお尋ねしたいと思います。今、一般的にはコンパクトシティがこの人口減少の中で一般的な考えですけども、市長はコンパクトシティについては、朝倉市もコンパクトシティが当てはまるというふうにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） コンパクトシティもいろんな概念があります。一方では、市の中心を1カ所に集めるというコンパクトシティ、それから多極化、同じようなそういった考え方もあります。朝倉市のこの面積を考えた場合、じゃあ1カ所に全部集めてしまうのが果たしていいのか、それとも極を、コンパクトの中心になる地区を2つ、3つとつくっていくのがいいのかということは、今からの話ですけれども、私としては、やはりこの朝倉市の中でコンパクトシティと言われる形の中で、全てを1カ所に集めてしまうのはどうも無理がありそう。私自身は正直言って、コンパクトシティという概念自体に多少の疑問を持っていたもんですから、そういった考え方がありますが、ある一定、都市機能というのを集めるということは必要だろうと思えますけど、それが余り行き過ぎたときにどうなるかという心配も片方では思っています。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 市長のコンパクトシティに対する考え方というのはよくわかりました。まちづくりをどういうふうにしていくかというのも、これもこれからまた市長と議会とで話し合っていないといけませんので、朝倉市の将来に向けてどれが一番ベストなのかを考えていきたいというふうに考えております。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、あす10日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後4時7分散会